

「ヘリテージ・アドベンチャラー」に会いに高松へ

2023.4.21 池田良穂

探検クルーズ客船「ヘリテージ・アドベンチャラー」が来日することを知って、ぜひとも会いたいと思った。港湾局の資料によると、太平洋を北上してきて八丈島に寄り、その後、横浜、清水、新宮、高松、宇野によるとのこと。近場の高松まで行って会うことに決めた。

数日前から同船の動向を AIS でウォッチしていると、イギリス付近に現れたり、イタリア付近に現れたりして、日本近海ではなかなかヒットしない。どうやら同じ船名の船がいるようだ。

ようやく横浜に入る前日になって、同船の動向が AIS で補足できるようになった。これで一安心。高松入港も間違いはない。

入港当日の高松の天気予報は「曇り」。若干心配だが、晴れ間が覗くことを祈ってでかけることにした。高松港には7時の入港とのことなので、前日に高松入りすることにして、神戸6時発のジャンボフェリーの「あおい」をWEBで予約。乗用車料金が5760円と、高速代より安いのが魅力だ。追加1500円を払って、前方の見えるリクライニング席を予約。席の位置まで指定できるので嬉しい。

5時過ぎに神戸のフェリーターミナルに到着して、乗船を待った。着岸した「あおい」からは大型トレーラーが続々と下船。この後、トレーラーとトラックが先に乗船して、いよいよ乗用車の乗船となった。高松行の乗用車は2台だけで、小豆島行が5台ほど乗船した。

残念ながら天気は悪く、明石海峡を抜けた直後に反航した名門大洋フェリーの「フェリーふくおか」の姿は靄っていて、よい写真にはならなかった。その後、雨が降り出した。途中、小豆島の坂手に寄港して、11時前に高松東港に到着した。

駅の横のJR系ホテルのチェックインが16時以降とのことだったので、天然温泉のスーパー銭湯でお湯につかり食事をしてから、高松港へ。天気は相変わらず曇りで時々雨も降り始めた。

そのままホテルに入るのも芸がないので、高松港16時発の雌雄島海運のしましま「めおん」に乗船して、男木島を往復することにした。片道40分、男木島で20分停泊した後折り返す約1時間40分のミニクルーズだ。

出港する頃に土砂降りの雨になり、雷鳴が鳴り響きだした。女木島寄港時には、雷が何個も落ちだすという、なかなか体験したことのない航海になった。

男木島に到着する頃になって、ようやく小雨に変わり、雷も遠ざかっていった。男木島でいつものように瀬戸内海を通過する船の写真を撮影できるかと期待していたが、雨に霞んで、瀬戸内海の幹線航路を走る船の姿は視認もできなかった。

船は男木島を出港した後、再び女木島に寄ってから、高松港に戻った。約1時間40分の

ミニクルーズの料金は 1020 円だった。

20 日、5 時半に起きて AIS で Heritage Adventurer の動向をチェック。男木島沖を 3 ノットくらいで南下している。ホテルの窓の外は真っ白の濃霧だった。

7 時に高松港に入港時にも霧が濃かったが、カメラを構える同好の士が数名いた。ホテルに戻って霧が晴れるのを待つ。地元天気予報では、昼から天気はよくなるとの予想がでていた。

霧が晴れた 10 時前に港にでかけて再び撮影。なんとか綺麗な写真は撮影できた。



濃霧の中、高松港に入港する探検クルーズ客船「ヘリテージ・アドベンチャー」。



5 万トン岸壁に 7 時に着岸。



霧が晴れた後、撮影した時には救命艇が降ろされていた。

ここで、同船について少し解説しておこう。ニュージーランドのヘリテージ・エクスペディション社が運航しており、元のパパクロイドの探検クルーズ客船「ハンゼアティック」。8378 総トンで、旅客定員は 184 名。

今年は、4 月に来日して以降 6 月まで、日本と韓国の各港を廻るクルーズを 4 回実施する。旅客は飛行機で来日して、横浜港もしくは神戸港で乗船するフライ&クルーズを行う。

同船は 1991 年にフィンランドで建造されたが、建造中に発注した会社が経営難で引き渡しが可能となり、1993 年にドイツのハンゼアティック・ツアーズに引き取られ、「ハンゼアティック」として完成した。1997 年にハンゼアティックがパパクロイドに吸収された後も探検クルーズに使われた。2018 年にはカナダのクルーズ会社にチャーターに出され「レゾルート」と改名したが、経営不振から運航されることはなく、2021 年には現船主に購入され現船名となった。2022 年からクルーズ事業を開始している。

さて、高松港での撮影を終えて、帰りには小豆島の土庄に渡り、島の東端の福田港から姫路港へのフェリーを利用することにした。10 時 40 分発の「しょうどしま丸」に乗船。チケット購入時に、クレジットカードが使えなかったのが意外だった。

高松出港時に、船上から「ヘリテージ・アドベンチャー」の斜め後方からの姿も見ることができた。霧はほぼ晴れたが太陽はまだでていない。



小豆島に渡る「しょうどしま丸」の船上から「ヘリテージ・アドベンチャー」の斜め後方からの姿を見ることができた。特異な船尾形状がよくわかる。

1 時間で土庄着。乗用車運賃は 6330 円と、神戸～高松間よりも高かった。航海中、小豆島航路のフェリーや高速旅客船、豊島航路の RORO 貨物船などと次々に出会う。



出港時に会った「まつかぜ」(左)と「第一こくさい丸」。港外には霧がまだ残っていた。



第一しょうしま丸



高速旅客船「スーパーマリン」



豊島航路の RORO 貨物船「しょうえい」



第二しょうしま丸

土庄港から福田港に陸路移動したものの、福田港と姫路港を結ぶカーフェリーは利用者減のために減便体制になっており、なにもない港で3時間近く待たされることになった。運賃は9850円と、今回の旅行の中では最も高い船賃だった。船は「第3おりいぶ丸」。ただ快晴になってよい航海が楽しめた。途中でRORO船「第6はる丸」と交差。小豆島の北側を通る航路を使っているようだ。

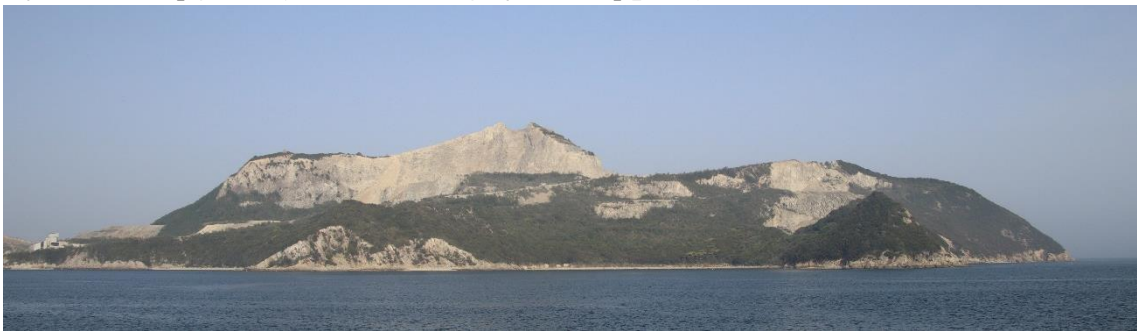
姫路までは100分の航海で、客室の最前席からのシップウォッチングを楽しんだ。途中に見える家島群島の西島のダイナミックな白い岩山の光景はいつもながら迫力がある。家島、坊勢島と姫路を結ぶ高速旅客船、石材運搬船と反航した。姫路港の港外には、大型のばら積み船と多目的貨物船が沖留めされていた。



福田港に入港する「第三おりいぶ丸」



「第三おりいぶ丸」船上から、交差した RORO 船「第六はる丸」を望む。



伊江島群島の西島。採石で山肌が削り取られている。以下は姫路と家島群島を結ぶ高速旅客船。



旅客船「輝帆丸」



高福ライナーⅡ



第二輝帆丸



はるか